

1. 日本の人口問題を分析する

1-1. 人口の推移

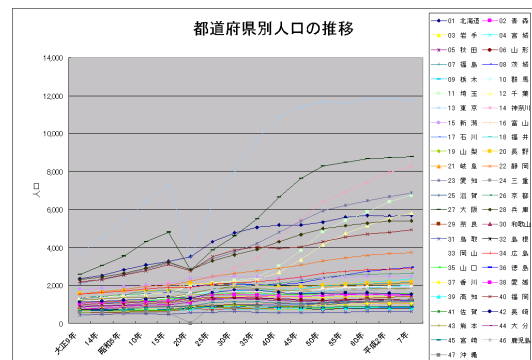
日本の人口は、江戸時代末期には推定3,400万人、明治7年に3,500万人に達し、明治45年には、5,000万人を超えた。

昭和11年にいったん7,000万人を超えたが、戦争により人口増加率は大幅に低下し、昭和20年には、人口減少を記録した。

戦後、第1次ベビーブームによる出生率の上昇で、昭和20年台前半に人口は急激に増加し、昭和25年に8,400万人に達した。

その後、増加率は年率1%程度で推移したが、昭和46年からの4年間に於いて、年率1.4%の高い増加を見せた（第2次ベビーブーム）。その後、増加率は低下を続け、近年は年率0.2%程度にまで低下している。

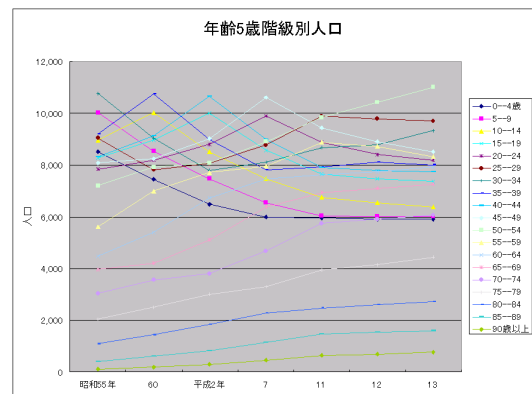
平成14年の総務省の人口推計では、日本の人口は、1億2,740万人に達している。



1-2. 少子化

日本は、大阪万博の開かれた昭和45年に、65歳以上の人口割合が7%を超え、「高齢化社会」に入った。それから四半世紀後の平成7年には14%を超えた。

高齢化のスピードは他の西欧諸国と比較して2倍も速く、これに対応した住宅・社会資本整備を進めることが課題となっている。



1-3. 参考資料

最近厚生労働省から公開された人口に関する資料は次のとおり。

- 毎月勤労統計調査－平成15年分結果確報02/16
- 平成15年屋外労働者職種別賃金調査の概況02/12
- 平成15年賃金構造基本統計調査（都道府県別速報）
- 平成16年3月高校・中学新卒者の就職内定状況等（平成15年11月末現在）について
- 平成15年度大学等卒業予定者就職内定状況等調査（平成15年12月1日現在）について
- 平成15年 人口動態統計の年間推計
- 平成14年患者調査の概況について
- 平成14年国民栄養調査結果の概要
- 介護給付費実態調査報告（平成14年5月審査分～平成15年4月審査分）
- 平成14年21世紀成年者縦断調査の概況
- 平成15年賃金引上げ等の実態に関する調査の概況
- 平成15年労働組合基礎調査の概況

参考データ：総務省、国土交通省